

## 5．熱環境改善構想実現に向けた人的基盤づくりの計画手法

### 5.1 人的地域基盤づくりの必要性

本構想における検討成果を広く発信し、全国各地の快適な地域づくりに繋げていくことは重要であるが、地元である新宿御苑周辺地域にとっても、この検討成果をそのまま絵に描いただけではなく、本構想の成果を地域でどう活用できるのか、展開の可能性を探っていくことが重要である。そのため、新宿御苑周辺地域への本構想の普及啓発活動を行うとともに、その実施手法を整理して、人的基盤づくりの計画手法を検討した。

#### 1) 人的地域基盤づくりとは

熱環境改善を実現するには、建物や設備などのハードの整備がある一方で、取り組みに対する理解を促進していくための基盤整備も不可欠である。熱環境改善への取り組みを定着させるためには、主役である地域の在住、在勤、在学している住民が、関心や意欲を持つような普及啓発が、第一歩として必要である。この一連の普及啓発の取り組みを、「人的地域基盤づくり」と位置づけ、今年度普及啓発の取り組みを実践しながら、人的地域基盤づくりの計画手法について検討を行った。

#### 2) 人的地域基盤づくりの必要性

それは、個人から取り組むことから始まって、それが地域全体まで広げていく必要がある。また、ハード整備がととのえば終わることではなく、その後守り育てていくという、人のかかわりが不可欠なものである。

人的地域基盤づくりを促進する必要性について、次の3点で整理した。

- ・地域特性にあった熱環境改善に向けて
- ・日常生活に即した熱環境改善に向けて
- ・継続的な熱環境改善に向けて

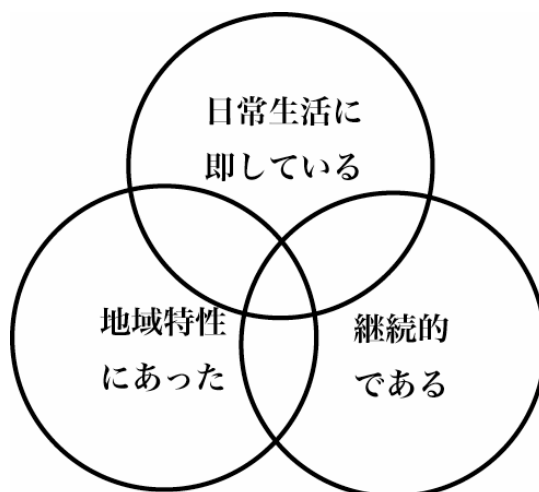


図5 - 1 人的地域基盤づくりの必要性の考え方

## 5.2 熱環境等に対する地域の取り組みの状況

### 1) 現況

新宿区は、「自然・文化・産業」の調和の取れたまちづくりを進めようと、平成17年6月に新宿区まちづくり懇談会報告書をまとめ、新たな基本計画策定に向けて「新宿区まちづくりグランドデザイン」を示した。その中で、これまでの歴史・文化を踏まえた将来像「歩きたくなるまち新宿」を提起し、実現に向けた3つの視点「賑わい・交流のまち」「文化芸術・創造のまち」「安心安全・潤いのまち」づくりをかかげ、5つの取り組みを提示した。

この取り組みのひとつが「水と緑のネットワーク」構想であり、具体策として「川や濠の親水化」と「立派な街路樹づくり」の2点を掲げている。新宿区は外周に神田川が流れ、新宿中央公園、戸山公園、新宿御苑など7つの森がある。水辺と緑をつないで快適性を高め、積極的に潤いのあるまちづくりに活かそうと考えている。

こうした構想の下に、新宿区では熱環境に関する様々な活動が取り組まれている。新宿御苑周辺地域に関わる属性別に、地域の取り組みを整理した。(表5-1)

また、市民レベルでの取り組みは、打ち水やみどりのカーテンづくりをはじめ、NPO、商店会、町会、個人単位など様々な形で展開されている。これらの取り組みの地域での展開を整理すると、数多くの活動が行われていることがわかる。一方、緑化促進という観点から、行政による制度の拡充も進んできている。(表5-2)

表5-1 熱環境改善に関連する新宿御苑周辺地域における既存の取り組み一覧

地域とのかわり	属性	活動	活動の種別	カルテ No.
行政	新宿御苑	シンポジウムなどの開催(共催)	普及啓発	
	新宿区	屋上緑化見本園(区庁舎)	緑化 普及啓発	1
		シンポジウムなどの開催	普及啓発	
		オープンカフェ実験	普及啓発	2
		新宿環境学習センターの設置	普及啓発、情報収集・発信	3
		新宿区エコ事業者連絡会 講座などの実施	人材育成 普及啓発 人材育成	4 5
学ぶ ほか	小学校ほか	壁面緑化	緑化	1
働く	オフィス	打ち水	環境改善 普及啓発	6
		花植え活動(新宿大通商店街振興組合ガーデニングクラブ)	緑化	7
住む	住宅	みどりのカーテンづくり	緑化	8
住む/所有する	ビルオーナー	屋上緑化	緑化	1
		打ち水	関連	6
活動する	NPO	みどりのカーテンづくり講座	普及啓発 緑化	9
		みどりの後の落ち葉で堆肥づくり	関連	

カルテNO.はP.121以降に示す番号と対応する。

表5 - 2 新宿御苑周辺地域の熱環境改善に関連するしくみ・制度

所管	名称	制度の概要	活動の種別
新宿区	緑化計画書制度	新宿区みどりの条例に基づき、制度の対象となる建築行為等を行うとき、緑化計画書を提出し、緑化を実施してもらう。	規制誘導
新宿区	みどりの巡回サービス	みどりに関する悩みや相談に答えるため、区職員が直接訪問し指導する。	活動支援
新宿区	緑化相談	樹木や草花の育て方について専門家が相談に応じる。	活動支援
新宿区	保護樹木等の指定・助成	所有者の申請により、区が保護樹林等として指定。地域への維持管理への協力依頼と維持管理にかかる費用の一部の助成。	保全
新宿区	接道部緑化助成制度	接道部の生垣・植樹帯の整備費の一部助成	活動支援
新宿区	グリーンバンク制度	建て替えや引っ越しなどで不要になった樹木を区が一時的にグリーンバンクに植え、ほしい方に引き取ってもらう。	保全
新宿区	公園のサポーター制度 / 区道のサポート制度	サポーターとして登録した団体、個人に、区と協議のうえ、無償で管理活動を実施してもらい、必要に応じて用具や、サポーター名を周知する看板などを区が設置。	活動支援
新宿区	エコライフ推進員	区民から構成。自然観察分科会や測定分科会、まち美化分科会など分科会ごとに活動し、環境の保全や負荷の軽減のための活動のための地域に広げていく人材として設置。	人材育成

(1) 規制誘導

新宿区では、緑化計画書制度を条例によって定め、2000 m<sup>2</sup>以上のビルに対して、屋上緑化などの整備をすることを定めている。

この制度により、新宿区内全域で年間 147 件、19,801 m<sup>2</sup>の緑地を創出している。このうち、屋上緑化は 21 件で、2,184 m<sup>2</sup>となっている。

(2) 緑化

地域内で、屋上緑化や壁面緑化（みどりのカーテン）を個人単位で既に取り組んでいるケースが数件見受けられる。これらは、熱環境改善を積極的に意識しているケースから、意識していないケースと、まちまちである。

熱環境改善を意識して行っているケースとしては、今年度実施した新宿区環境学習情報センターによるみどりのカーテンづくり講座の受講生も含まれている。

御苑周辺にあるレストランなどの飲食店でも、新宿御苑の冷気の活用や借景を意識した店を数件見受けられることができる。

### (3) 普及啓発

特に、NPO 新宿環境活動ネットでは、新宿中央公園にある新宿区立環境学習情報センターの指定管理者でもあり、平成 17 年度にはみどりのカーテンづくりの講座を開催している。また、2001 年より開催している「まちの先生見本市」では、地域で環境活動や環境学習を推進している団体が交流・発表する場を設け、発信をしている。

### (4) 活動支援

これまで道路をはじめとする公共物は行政が維持管理するものであったが、住民・行政の協働による道路、公園の管理のための制度がスタートしている。新宿御苑周辺でも、道のサポート制度によって近隣住民が、道路植栽の管理をしている箇所もある。

これらより、現況をまとめると次のようになる。(図 5 - 2)

- ・緑化をはじめとする環境整備に対する制度が拡充されてきている
- ・NPO を中心に住民主体による熱環境改善を含む環境保全の基盤整備がととのってきている
- ・環境保全に関心のある住民の活動拠点として、新宿区立環境学習情報センターが定着してきている

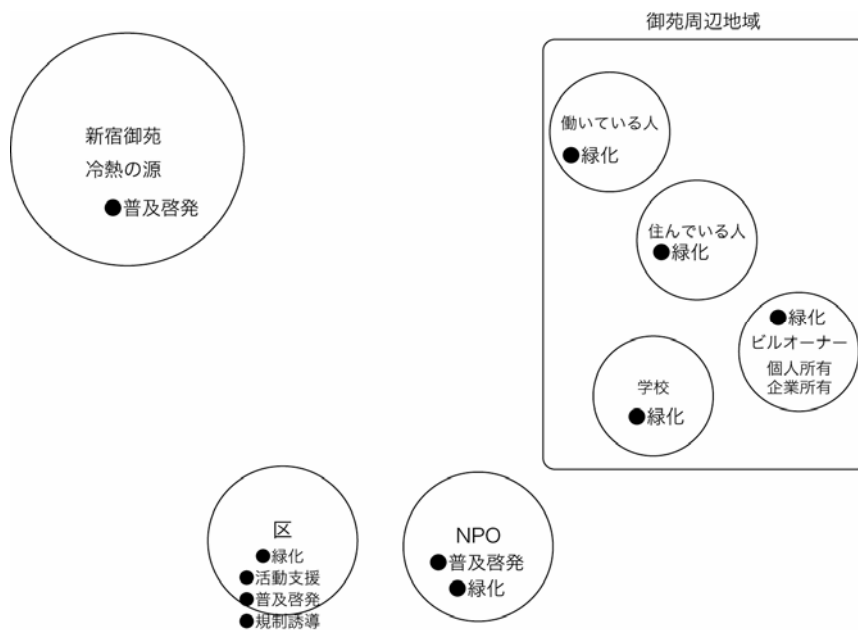


図 5 - 2 地域での取り組みの現況

## 2) 展開のカギ

環境保全に関する活動は活発に行われているが、新宿御苑の冷気を活用した熱環境に関する活動はあまり行われていないことから、新宿御苑を核とした周辺地域の取り組みを活発化させることが重要である。人的地域基盤づくりの推進における今後の展開のカギは次の点であると考える。

- ・個人、NPO、行政相互のつながりのさらなる強化
- ・新宿御苑の冷熱効果を活用した取り組みの増加
- ・様々な地域主体とのネットワークと普及啓発のノウハウを持っている NPO の活用

### 5.3 熱環境改善に向けた人的地域基盤づくりの計画手法

#### 1) 計画手法の考え方

熱環境改善の推進に向けた人的地域基盤づくりの計画手法は、次のようにまとめることができる。(図5-3)

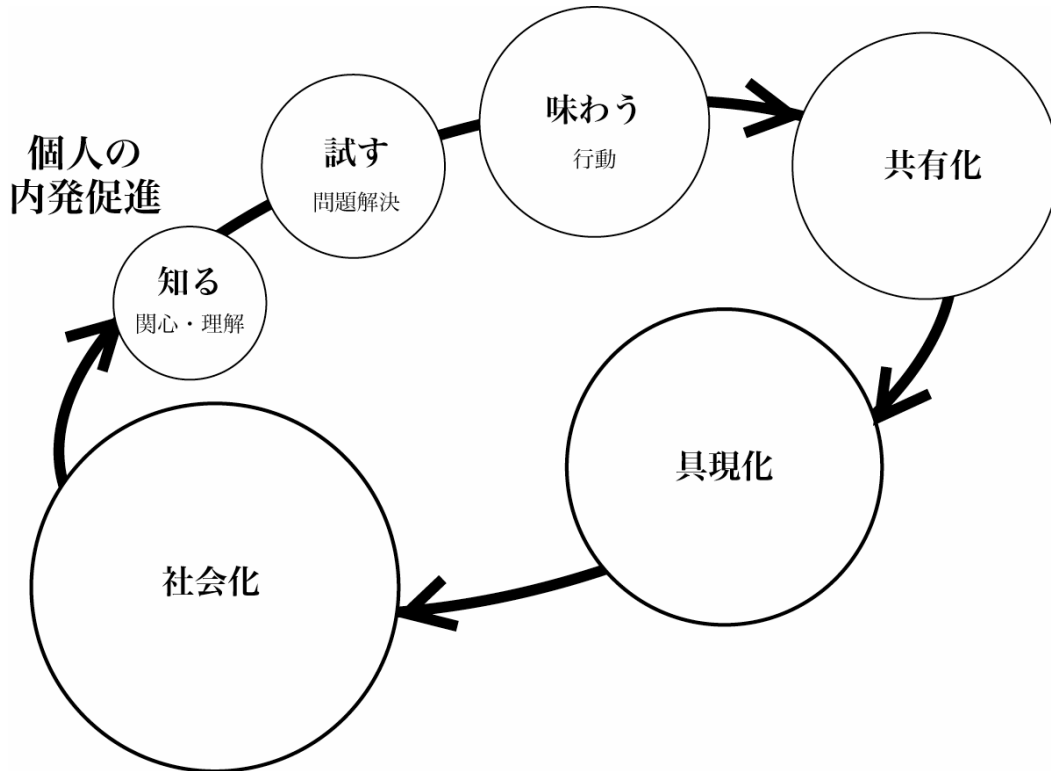


図5 - 3 人的地域基盤づくりのプロセス

#### 個人の内発促進：知る・試す・味わう

個人レベルで、知る・試す・味わうを経ることにより、熱環境改善に対する個人の思い・行動が高まり、それが同様に他の人の思いと共有するステップへとつながる。

#### 共有化から社会化へ

個人の思い・行動から、共有化されることにより、「具現化」という目に見えるかたちへ段階は進み、具現化されるものが増えていくことによって、「社会化」という世の中で当たり前のこととして広がっていく。

#### 社会化から個人の内発促進へ

世の中で当たり前のこととなることによって、また個人レベルの内発促進に立ち戻り、次の段階の熱環境改善について「知る」というプロセスに進む。

このスパイラルアップしていく段階的プロセスによって、熱環境改善の取り組みが実現していくと考えられる。

## 2) 人的地域基盤の考え方

熱環境改善の人的地域基盤づくりをめざしていくなかで、地域の人材を生かすには、次の3点が重要になる。

- ・全ての段階:それぞれの主体の特性にあったかわり
- ・初動期:個人から共有するステップへ
- ・中長期:共通の目標を達成するための場から場に集まる人たち自らが発信する主体が核に

熱環境改善を地域で進めるためには、個人による取り組みと同時に、単発的に行われている取り組みをつなげ、地域全体のうねりとなるよう牽引する力も求められる。この点、地域や関心のある人たちが主体的に牽引していく体制を作っていくことで、地域全体への取り組みへとつながっていくことができる。(図5-4参照)

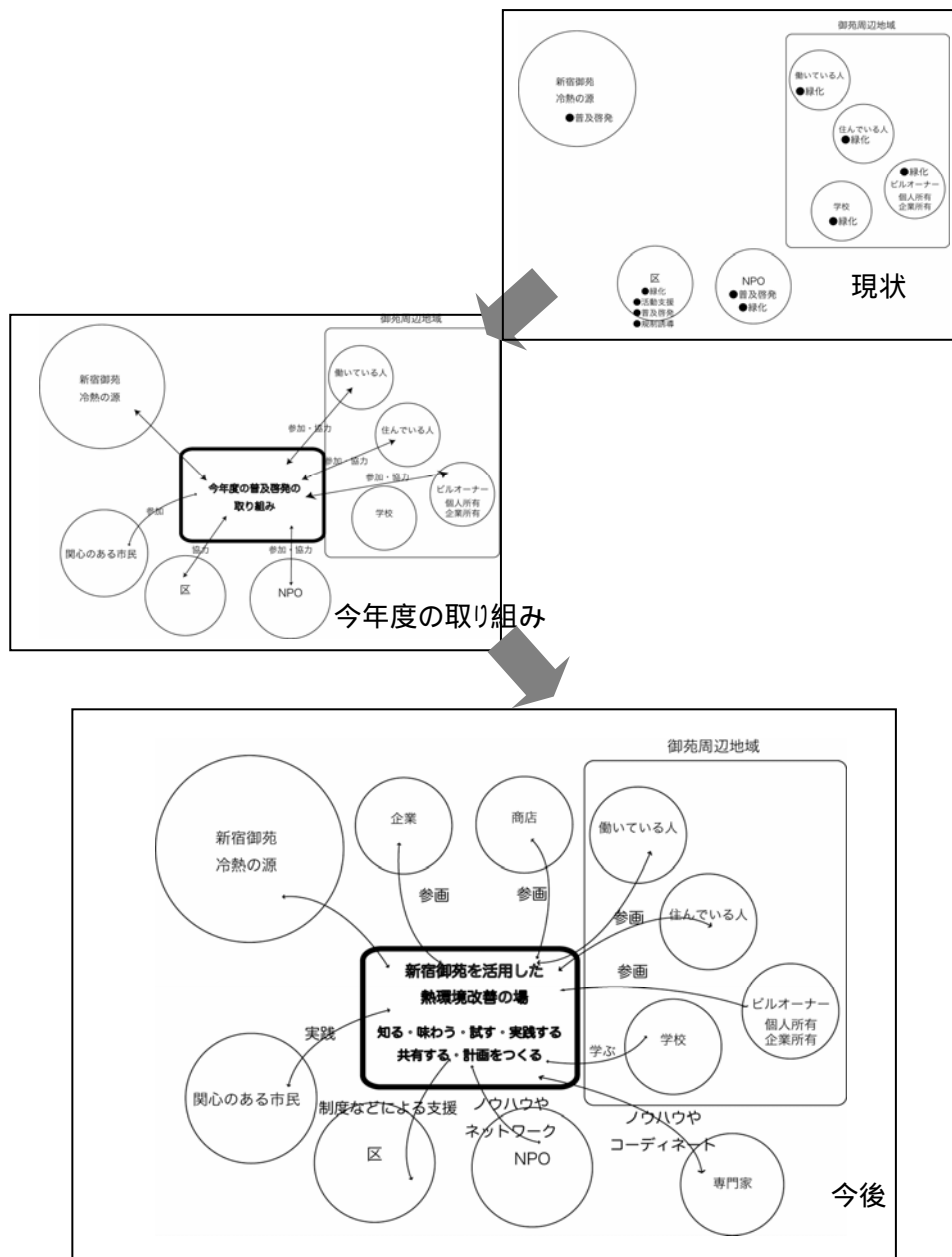


図5 - 4 人的地域基盤のプロセス

5.4 今年度の普及啓発の取り組みについて

1) 位置づけ

熱環境改善に関する取り組みは、現在様々な形で全国において展開されている。そして、市民の熱環境改善に対する意識も少しずつ向上しつつある。そのような動きのなか、平成 17 年度は、まず冷気活用地域へ熱環境改善についての理解と実践に向けた初動期（個人の内発促進）と位置づけ、普及啓発のプログラムを実施した。（図 5-5）

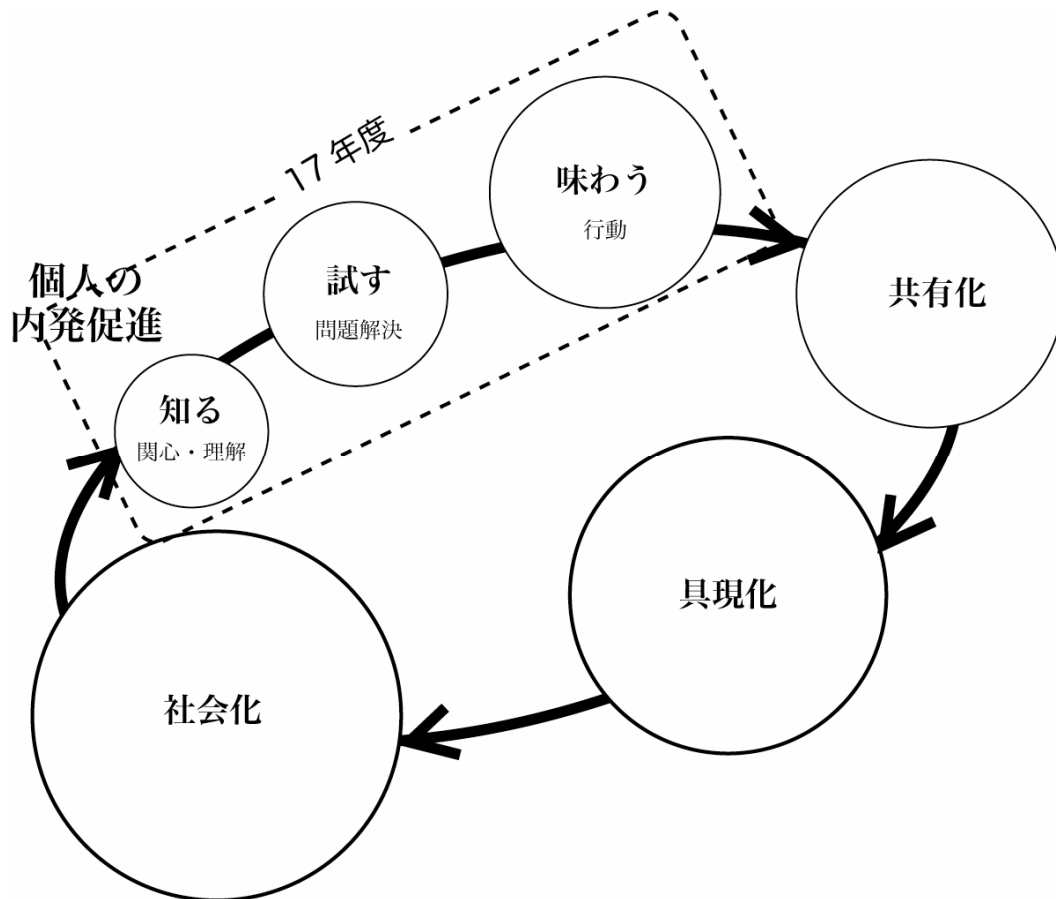


図 5 - 5 今年度の位置づけ

表 5 - 3 今年度の取り組み内容

1 『知る』(関心・理解)	セミナーなどにより、体感を通して地域における熱環境改善手法による効果を知る。また、緑地内や該当地域を歩いて、体感を通して現状の熱環境を把握する。
2 『試す』(問題解決)	ワークショップなどを通して、実施可能な方法を自ら検討することで熱環境改善構想作成へ参画を促す。また、その方法を実行してもらう。
3 『味わう』(行動)	2 で試行した方法について、実際にその効果を体感してもらう。
4 『分かち合う』(共有)	3 で行った事例の効果をお互いに情報共有できる場所を提供する。

## 2) 目標

今年度の活動における、具体的な目標としては、次の3点に整理される。

- ・地域とのつながりをつくる。
- ・熱環境改善の主体となるきっかけをつくる。
- ・主体となる人たちが、継続して地域の熱環境改善を行うための活動グループになるきっかけをつくる。

## 3) プログラムの概要及び成果

今年度は、『知る』、『味わう』、『試す』という段階的プロセスについて、ワークショップを軸に、地域住民をはじめとする市民との体験や意見交換を行った。また、ワークショップと並行して、地域の核となる人たちへのヒアリングを実施し、熱環境改善の普及に向けた今後の展開について検討を行った。

表5 - 4 今年度の普及啓発の取り組みの流れ

月	普及啓発の取り組み	普及啓発と関連した NPO の取り組み
4月		↓ 連続講座「みどりを生がすくらしの知恵・まちの知恵」(新宿区立環境学習情報センター) ↓ 9/17 写真コンテスト(新宿区立環境学習情報センター)
5月		
6月		
7月		
8月	地域向け事前説明会	
9月	「知る」「味わう」 ...9/3 第1回ワークショップ 9/2~3 すだれ実験 地域の受け皿づくりの予備調査 ...9/20 関係者ヒアリング	
10月		
11月	涼風便り発行	
12月	「試す」「実践」に向けた作戦会議 ...12/11 第2回ワークショップ	
1月		
2月		
3月	地域のキーパーソンによる次年度に向けた作戦会議 ...3/10 地域戦略会議	



表5 - 5 普及啓発の取り組みのねらいダイアグラム

	広報・PR		意識の喚起 < 個人の内発促進 >				共有化への準備	
	構想内容の広報	取り組みへの参加呼びかけ	暑さ涼しさを知る	暑さ涼しさを試す	解決法を知る	暑さ涼しさを味わう	地域で行われている活動を知る	地域での実践方法を考える
a.第1回ワークショップ								
b.すだれ実験								
c.関係者ヒアリング								
d.涼風便り								
e.第2回ワークショップ								
f.地域戦略会議								
< 関連 > 連続講座「みどりを生かす くらしの知恵・まちの知恵」								

(1) 第1回ワークショップ：「知る」・「味わう」場の提供

目的

地域に向けた普及啓発の第1歩として、まずは新宿御苑が生み出す冷気を体感することにより、構想の趣旨を理解し、都市緑地の冷気活用への関心、そして主体性を喚起させる。

主な内容

表5 - 6 第1回ワークショップ実施概要

実施日時	9月3日(土)午後2時～9時
プログラム	第1部 体感まち歩き < デイツアー編 > 第2部 体感セミナー < 涼しさのメカニズムを知ろう > 第3部 体感まち歩き < ナイトツアー編 >
天候	晴れ
参加人数	第一部 20名 第二部 27名 第三部 60名

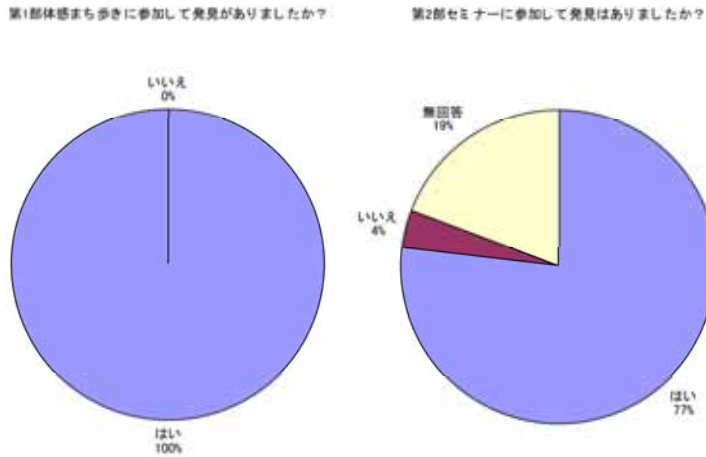
成果と課題

参加者自らが身近なまちで放射温度を測定するという第1部体感まち歩きと体感温度のメカニズムなどについて学ぶという第2部セミナーによって、参加者のほとんどが新たな発見

をしたと回答している。

また、第3部は、普段入ることのできない新宿御苑でのナイトツアーということもあり、多くの地域住民の参加があった。

課題としては、セミナーから体感までを一日がかりで行ったため、一日で理解したことをもう一度確認する機会を提供するなどのフォローアップが必要である。



第1部 回答数:20

第2部 回答数:26

図5 - 6 第1回セミナー参加者アンケート結果

(2) すだれ実験：「知る」・「味わう」場の提供 + すだれによる冷熱効果の測定

目的

第1回ワークショップと連動して行われ、新宿御苑沿いの通りの一角に「すだれ」による日よけを設置し、すだれの一部と路面に散水をおこなうことで緑化と同様の効果を模擬的に再現し、実測をすると共に、通行人に対する体感ならびに普及啓発を実施する。

主な内容

「日よけの有無」、「日よけへの散水の有無」による違いを実測し、通行人にすだれに入って涼しさを体感してもらい、その意見を収集した。

表5 - 7 すだれ実験実施概要

実施日	平成17年9月2日～3日
測定内容	気温測定 すだれ設置箇所(散水あり) すだれ設置箇所(散水なし) 日向の三箇所に温度計を設置し、20分間隔で測定を行う。 熱画像カメラによる撮影 すだれ設置箇所における定点観測 10時～19時 一時間毎 その他の撮影 WBGT計による測定 WBGT(熱中症指標)値の測定。
実施場所	新宿御苑北側通り(16.4mの区間、高さ3m)新宿区新宿2-4-2前
実験実施・データ協力	東京電力(株)

## 測定結果

### 気温測定

すだれによる日よけの設置箇所と設置していない箇所では、1 程度の気温差が生じている。さらに、散水を行う（散水はほぼ一時間毎に実施）ことで、0.5～1 程度の気温差が生じていることがわかる。

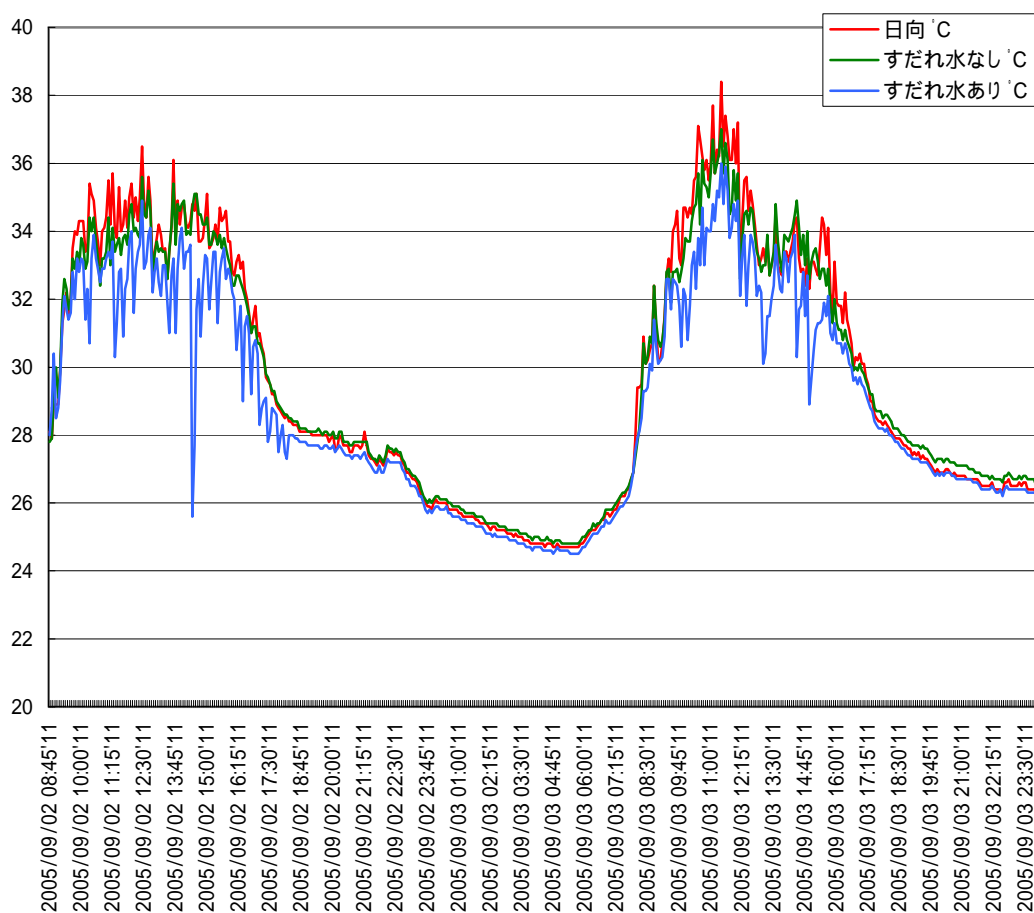



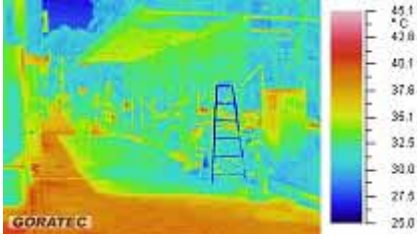

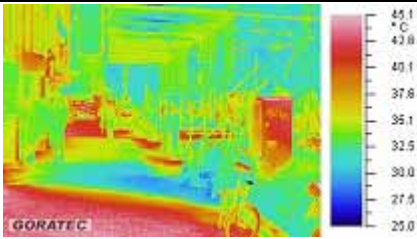

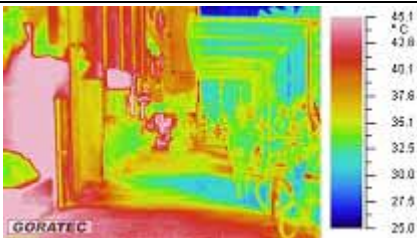


図5 - 7 気温変化グラフ

### 熱画像撮影

すだれ実験の熱画像結果を表5 - 8に示す。13時、16時をみると、すだれの日陰範囲の表面温度は30 前後であるのに対し、日なたの温度は40 以上となっている。また、すだれ自体も周辺の日射を受けている壁面等と比べて低温になっている。

19時をみると日没後にもかかわらず、すだれ下はそのほかの路面に比べて低温となっている。これは、すだれ下部分の日射による蓄熱がそのほかの路面に比べて小さいということを示していると考えられる。

表5 - 8 すだれ実験の熱画像

10時		
13時		
16時		
19時		

### WBGT 計による測定

図5-8は体感温度を示す指標であるWBGT値の推移を示している。(測定間隔20分)。一番体感温度が高いのは、日よけを設置していない歩道面となっている。その後、日よけあり(散水なし)、日よけあり(散水あり)、木陰と概ね推移していることがわかる。

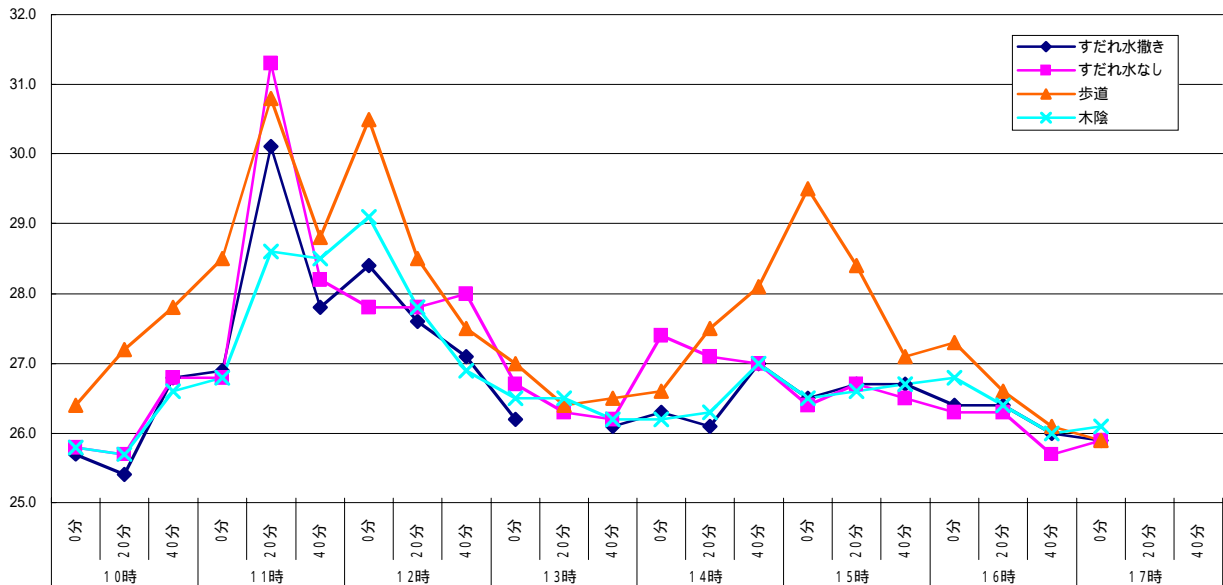


図5 - 8 WBGT値グラフ

成果と課題

普及啓発という点においては、歩道に設置されたすだれによる人工的な日陰は、通りすがりの人にも涼しさのメカニズムを気軽に体験する機会を提供することができ、取組の認知度向上にも資するものとなったと考えられる。

課題としては、今回設置したのが2日間と短期間であったため、より多く人に体感してもらうためには、長期的な設置や他の行事との連携も視野に入れた計画づくりが必要である。また、新宿御苑周辺でみどりのカーテンを実際に設置することができれば、大きな成果を得ることができると考えられる。

(3) 関係者ヒアリング：地域の受け皿づくりのための予備調査

目的

熱環境改善の受け皿づくりにむけ、すでに地域で展開されている取り組みとの関連づけ方を探る。

主な内容

地域活動の核となり得る人に対して、ヒアリングを実施した。

表5 - 9 ヒアリング実施概要

実施日	平成17年9月20日(火)
人数	4名
対象	新宿二丁目町会/新宿御苑北側道路沿い在勤、建物所有者 未広通り商店会/新宿御苑北側道路沿いマンション在住 涼風体感実験(すだれ設置)協力マンション 新宿大通商店街振興組合

#### 成果と課題

ワークショップに参加者へのフォローアップを行うとともに、地域活動の核となりうる人からのヒアリングを行い、「新宿御苑を活用した取り組みを行いたい」といった声や「沿道のお店同士のつながりがいい」など、地域のニーズや現況などを把握することができた。

#### (4) 涼風便りの発行（11月発行）：地域に対しての取り組み PR と仲間集め

##### 目的

第1回ワークショップと並行して行われたすだれ実験や夏に行った調査など、町中で様々な取り組みに対する、ねらいや具体的な内容について地域に対して報告するとともに、第2回以降の普及啓発の取り組みへの参加や関心を得る。

##### 主な内容

- ・普及啓発の位置づけ
- ・第1回目のワークショップの報告
- \* 周辺町会と新宿御苑インフォメーションセンター、四谷特別出張所、新宿区役所などを中心に約450部配布した。

##### 成果と課題

ワークショップに参加できなかった人にも、取り組み内容と合わせて、自宅でもできる涼しく過ごす方法も掲載したことによって、より身近な情報として提供することができた。

課題としては、今期は1号のみの発行となってしまったが、地域により関心を持ってもらうためには、普及啓発の取り組みや季節にあわせた発行や、町会以外での配布なども必要である。

#### (5) 第2回ワークショップ：地域での「試す」・「実践」に向けた作戦会議

##### 目的

構想を普及させる地域がすでに取り組んでいる活動を参加者同士が把握し、構想と地域活動をリンクさせるきっかけをつくり、一人一人から始める新宿御苑の冷熱を活用する方策について検討する。その結果、一人でも快適に過ごすためにできることから始めるきっかけをつくる。

また、今夏新宿御苑ならびに周辺地域で実施した実測結果について報告する。

##### 主な内容

表5 - 10 第2回ワークショップ実施概要

日時	2005年12月11日(日)午後2時～午後5時
会場	新宿御苑インフォメーションセンター 2階レクチャールーム
当日プログラム	Part1:前回ワークショップのおさらいと測定の報告 チームネット甲斐徹郎 Part2:事例紹介とパネルディスカッション * 新宿大通商店街振興組合 * エコギャラリー新宿センター * 新宿御苑管理事務所 参加者よりひと言
参加人数	12名(うち区民7名、前回参加者6名)

### 成果と課題

今後の地域での展開にあたっての具体的なアイデア等の意見交換を行い、今後の活動の核となりうる地域のキーパーソンを把握することができた。

課題としては、12月というと暑さを感じる時期でなかったため、内容自体に対しての住民の関心を引き出すことができなかつたことが挙げられる。今後は、より多くの人に共感してもらうためにも、季節に配慮した普及啓発のプログラムづくりが必要である。

## (6) 地域戦略会議：今後の地域での展開についての作戦会議

### 目的

地域のキーパーソンを中心に、今夏、新宿御苑ならびに周辺地域で実施した実測結果も含めた今年度の熱環境改善に関する一連の取り組みについて報告する。また、今後地域に根ざした活動にしていくためのアイデアを出し合い、それを実現させるためのスケジュールなど、こんごの実施体制について検討する。

### 主な内容

表 5 - 1 1 地域戦略会議実施概要

日時	2006年3月10日(金)午後6時～午後8時
会場	新宿御苑インフォメーションセンター 2階レクチャールーム
当日プログラム	Part1:今年度の取り組みについての報告 チームネット甲斐徹郎 Part2:来年度以降の地域での展開についての意見交換
参加人数	10名(うち区民7名)

### 成果と課題

地域のキーパーソンをターゲットに絞った話し合いの場としたことで、高い関心を持った中で、参加者からは「フリーマーケットをしてはどうか」「地元のお祭と連携しよう」「子どもも参加できる取り組みに」といった具体的なアイデアを持って議論をすることができた。

今後は、出されたアイデアを実現的な事業計画(スケジュール、体制)としてまとめ、実行性の高いものにする必要がある。

## 4) まとめ

### (1) 体感による意識の喚起

第1回ワークショップで実施した、体感まち歩きやナイトツアーは、自分の身近な環境での暑さ、寒さを感じるメカニズムを知る場を提供することができ、また新宿御苑前でのすだれ実験では、普段通行する人の意識喚起を促すとともに、取り組みに対するPRの機会とすることもできた。

意識喚起を促すことができた要因をまとめると、次のことが挙げられる。



図 5 - 9 新宿御苑前でのすだれ実験

・身近な題材 = まちでの体感 実感を持って考えられる

普段過ごしているまちの様々なものの温度を測りながら、まちのどこが暑いのか、また暑さはどのように生まれてくるのかということ、肌で感じることによって「実感」として体で覚えると同時に、その場でしくみを学ぶことで、普段の生活と結びつけて考えることができ、まちを改めて考えてみるきっかけ = 「発見」を与えることができたのではないかと考えられる。

・みんなと一緒に体験 自分も考えようという意識の啓発

普段何気なく通り過ぎている道や街並みについて、関心のある人とともに歩きながら学ぶことによって、意識を互いに喚起させることができるとともに、「みんなが環境を改善していこう」という意識へのステップアップを図ることができたと考えられる。

・まちでの体感 - セミナー - 新宿御苑での体感 の3段階によるワークショップ構成 熱環境改善への意識が確実にステップアップしていく

<第1段階> まちでの体感 = 意識の喚起 <第2段階> セミナー = 知識の定着 <第3段階> 新宿御苑での体感 = 得た知識の再確認から意識の高揚へと、つなげていくことにより、集中的に意識を高め、それを持続的に熱環境改善への関心へと結びつけることができたと考えられる。

## (2) 地域におけるキーパーソンと潜在的ニーズの発掘

熱環境改善の取り組みを今後地域に根付かせるためには、地域で既に展開されている取り組みや、地域のニーズを把握することが不可欠である。今回のワークショップとヒアリングを通して、地域の多くの人々が新宿御苑に対して、熱環境という側面からも何らかの関わりを持ちたいと思っていることが明らかとなった。

また、すでに個別取り組んでいる、あるいは取り組もうとしている事例をヒアリングすることにより、今後の交流の場としての足がかりとすることができた。

人材とニーズの発掘に導いた要因をまとめると、次のことが挙げられる。

・地域密着型の周知 地域との連携の必要性を喚起

初期段階から地域で様々な取組を行っている方々と連携しながら普及啓発を行うことにより、単に関心のある人だけの参加でなく、地域ぐるみで行う必要性について理解を得ることができ、さらに関連するキーパーソンなどを巻き込んでいくことにもつなげられたと考えられる。

・ワークショップや実験を通じた地域との協力 地域の人材を活用するきっかけに

当検討会がすべてお膳立てをするのではなく、ワークショップや実験について地域の方々との協力や連携により行ったことにより、熱環境改善の取り組みに対して地域の方々も身近に感じる事ができ、今後も何らかのかたちで関わっていこうという意識を生み出すことができたものと考えられる。

・地域の取り組みの情報交換 互いの活動との交流、思いの共有の場づくりに

市民活動において、様々な取り組みは独自で熱心に行われているが、活動同士の交流の機会を持つことは時間的な制約やきっかけがないといったこともあり、なかなか難しい。そのなかで、今回新宿御苑、みどりを活用した熱環境改善というテーマで、情報や意見を交換することにより、互いの活動や、考え方を共有することができ、次の段階へのつなぐ場とすることができたものと考えられる。



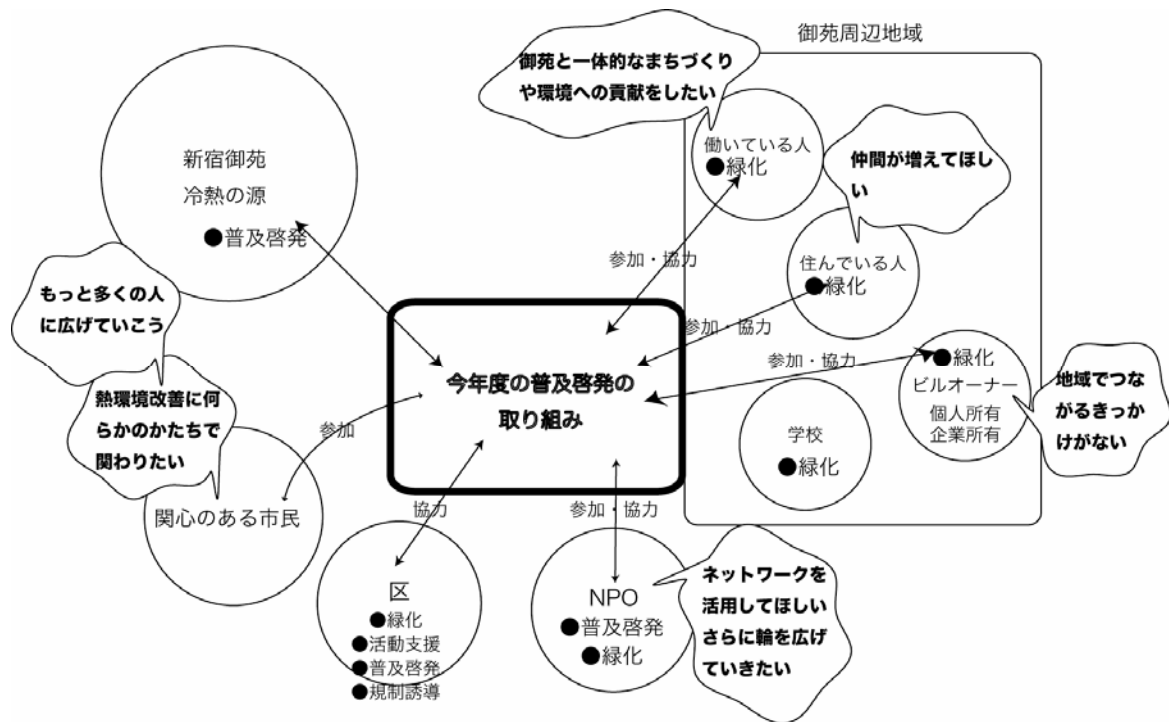


図5 - 10 普及啓発ワーキングによる地域への波及と地域の潜在的ニーズ

## 5) 課題

### (1) 喚起された意識を「つなげる」

今年度は、新宿御苑から生み出される冷気やそのメカニズムについて、地域の人たちが理解し、次の行動へ結びつける段階であった。その過程の中で、体感を通して共感し、意識の喚起を促すことはできたが、その思いを行動（みどりのカーテンづくりなど）へ結びつけるには、季節等の問題もあり、時機を逸してしまった。そのためには、植物や季節などを最優先した普及啓発の計画づくりが重要である。

### (2) 地域内を「つなげ」主体を「育てる」

ワークショップやヒアリングを通して、地域内でも熱環境改善に関連する取り組みが、個別に行われていることが分かった。それぞれ個別に実践されている取り組みをうまくつなげ、自然発生的な地域の主体へと育てていくためには、組織作りありきではなく、地域の人々が身近なところから主体的に関わり、次第に地域全体へと範囲を広げ連携しながら取り組んでいける段階的なプログラムや実践の場が必要である。

### (3) 関連した事業や活動と「つながる」

平成18年度は、新宿御苑開園100周年にあたり、年間通して様々な事業が行われる予定になっている。また、新宿区立環境学習情報センターでは、熱環境改善に向けた様々な取り組みが盛んに行われている。

今年はセミナーという勉強会形式で、独自に熱環境改善について普及啓発を実施したが、身近な体感や他の事業と連携させることによって、より多くの人を巻き込み、関心を持つようなプログラムも必要である。

## 5.5 今後の展開

### 1) 位置づけ：地域が主体的に動く『共有化』のステップ

普及啓発の進め方の中で、今年度のプログラムの中では『知る』、『味わう』、『試す』の初期段階まで進むことができた。今後は、『試す』ことを広げながら、さらに『思いの共有化』のステップへと進み、取り組みの裾野を広げていくことが重要である。(図5-11)

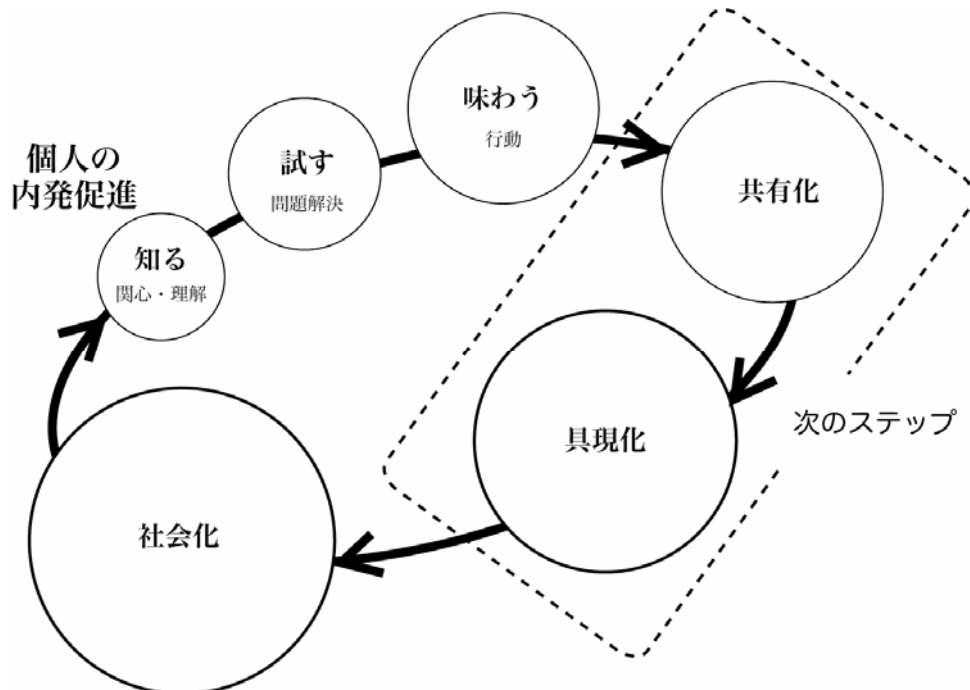


図5-11 今後に向けた人的地域基盤づくりのプロセス

今後の体制としては、今年度プログラムで得ることができた地域のキーパーソンをつなぎ、熱環境改善をテーマに地域の主体的な核へなることができるよう、専門家やNPOが連携、支援しながらプログラムを進める必要がある。

### 2) 目標

#### (1) 目に見えるかたちにする：喚起した意識を「つなげる」

これまで個別にみどりのカーテンづくりをはじめ、熱環境改善に取り組んできている。それをさらに社会実験やパッケージ化などにより、多くの人が目にしたり、実際に取り組むことが容易になるような場やしくみを構築する。

#### (2) 将来像を自分たちで描く：地域内を「つなげ」主体を「育てる」

個々の体感をもとに、熱環境改善のしくみや普及メニューなどを住民主体で検討し、地域特性にあった熱環境改善の取り組みを作り上げるとともに、そのプロセスをつうじて地域の主体を育てていく。

(3) 裾野を広げる：関連した事業や活動と「つながる」

身近なところからできるように、また楽しく体験できるような場を設定し、多くの人が、熱環境について考えることができる機会を提供する。

- ・目に見えるかたちにする...自宅ではじめるみどりのカーテンづくり、ビル一棟丸ごとみどりのカーテン作戦、みどりのカーテンづくりキット販売など
- ・将来像を自分たちで描く...市民版地域改善プランづくり、我が家のエコアプリフォーム計画
- ・裾野を広げる...コンサートやまち歩きフリーマーケットなどの企画と連動した体験

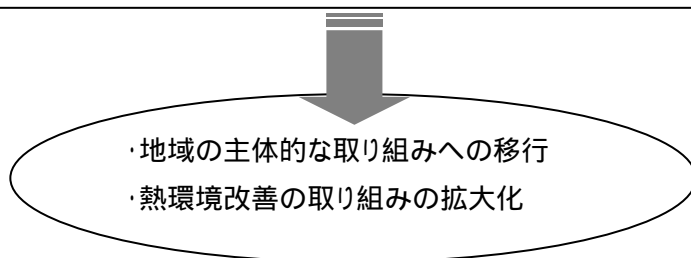


図 5 - 1 2 次のステップに向けた目標

5.6 熱環境改善のための普及啓発メニュー


熱環境改善を進めるうえでは、直接的な緑化から、自発的な取り組みへとつなげる普及啓発まで様々な手法が考えられる。ここでは、普及啓発という側面から、それぞれの場面や目的、主体に応じた手法を整理した。(表 5-12)

表 5 - 1 2 熱環境改善のための普及啓発メニュー一覧

手法	対象	段階と目的	カルテ No.
みどりのカーテンづくり	一人からビル一棟まで	(初動期～)試す+味わう	9
打ち水	一人から	(初動期～)試す+味わう	6
すだれやオーニングによる日よけ	一人から	(初動期～)試す+味わう	10
体感まち歩き	数名から	(初動期)知る+味わう	11
体感実験	参加は誰でも	(初動期～)知る+味わう	12
広報紙「涼風便り」	地域で	(初動期)知る	13

## カルテ編

No.1	屋上緑化、壁面緑化
取り組み	緑化、普及啓発
対象	一戸から
概要	<p>新宿区における実施状況</p> <p>学校：区民との協働により、小学校7校、中学校2校、幼稚園1園で緑化が行われた(平成15年度実績)</p> <p>その他の公共施設：壁面緑化5カ所、護岸緑化2カ所、道路緑化1カ所、屋上緑化1カ所</p> <p>区全域：9㎡以上の屋上緑化...725箇所(約3.1ha)</p> <p>3㎡以上の屋上緑化...103箇所(約0.5ha)</p> <p>*平成12年度調査</p>
参考資料	新宿区環境白書 平成16年度版(新宿区)

No.2	オープンカフェ実験
取り組み	普及啓発
対象	商店街など
概要	<p>新宿区では、平成17年9月から12月までの間、新宿3丁目の路上において、道路空間を利用したオープンカフェを設置した。新宿警察署・新宿駅前商店街振興組合の協力を得て、新宿駅前商店街(モア四番街)で実施した。その効果などを検証する社会実験を行ったもので、期間中は自由に利用し、また様々なイベントなどが行われた。実施場所には、植え込みなども置かれていた。</p>
写真	
参考資料	新宿区ホームページ

No.3	環境学習情報センター
目的	普及啓発、情報収集・発信


対象	区全域
概要	<p>新宿区では、環境学習や環境情報の共有を何よりも大切であると考え、環境問題に取り組む区民や企業などが集い、情報を発信・共有する場として平成16年6月より環境学習情報センター開設。指定管理者として、NPO新宿環境活動ネットが管理・運営を行っている。</p> <p>環境学習情報センターでは、児童・生徒や親子を対象にした体験型講座や、企業を対象としたセミナーや、環境学習のリーダー育成を実施している。</p>
参考資料	新宿区ホームページ

No.4	新宿区エコ事業者連絡会
目的	普及啓発、情報収集・発信
対象	区全域
概要	<p>新宿のISO14001の認証取得記念シンポジウムをきっかけに、発足。事業者が情報交換しながら、相互に環境保全への取り組みをレベルアップさせていくとともに、地域へのかかわりを深めていくことを目的に活動。連絡会を年3～4回開催し、毎回約50社の参加がある。</p>
参考資料	新宿区環境白書 平成16年度版

No.5	講座などの開催
目的	普及啓発、人材育成
対象	区全域
概要	<p>新宿区では、区民の環境学習の機会の提供として、さまざまなかたちで講座などを開催している。</p> <p>&lt;主な講座&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコリーダー講座(新宿区)</li> <li>・夏休み親子体験教室(新宿区)</li> <li>・「夏休みのくらしチェック・まち探検でエコにトライ!」(環境学習情報センター)</li> <li>・エコビジネスセミナー(環境学習情報センター)</li> <li>・エコリーダー養成講座(環境学習情報センター)</li> </ul>
参考資料	新宿区環境白書 平成16年度版


No.6	打ち水	今回実施した取り組み
目的	普及啓発、クールダウン	
対象	1戸から地域ぐるみまで	
概要	<p>自分の住まいやオフィスの前で打ち水を行うという個別の取り組みの他に、平成15年より「打ち水大作戦」として、夏至の正午に一斉に打ち水を行ったものに、区職員も参加して行った。</p>	

	今年度実施したすだれ実験では、地表面ではなくすだれに散水を行った。このことにより輻射熱を下げ、体感温度の低下を実証することができた。
写真	


No.7	花植えなどの活動
目的	緑化
対象	町会や商店街、地域団体
概要	新宿駅から新宿御苑にかけて、一体的なつながりを見せるための一環として、組合員により、街路樹や植栽帯に草花を植える活動を実施。
写真	


No.8	みどりのカーテンづくり講座	関連企画としての取り組み
目的	(初動期～)知る＋試す＋味わう	
対象	市民	
概要	<p>新宿区立環境学習情報センター(指定管理者 NPO 法人新宿環境活動ネット)の事業で、「4 回の連続講座と最後にそれぞれが作ったみどりのカーテンの成果を発表する写真展を実施。</p> <p>今回の取り組みでは、講義だけでなく、実際受講者が苗を自宅に持ち帰り、みどりのカーテンづくりを行い、さらにその結果を、写真展として発表し、情報交換を行った。</p>	

	(準備するもの) 苗、土、プランター、支柱、写真、展示用の機材一式、プレゼンテーション用の機材一式 など
写真	

No.9	みどりのカーテンづくり	関連企画としての取り組み
目的	(初動期～) 試す + 味わう	
対象	一人からビル一棟まで	
概要	<p>みどりのカーテンを作ることによって、熱環境改善する環境を作り出し体感できる。また育てるプロセスを楽しむこともでき、カーテンが大きいほど周囲に対して、視覚的効果(インパクト)も大きい。</p> <p>涼風認定制度と併用することにより、熱環境改善のPR効果もねらうことができる。</p> <p>(準備するもの) プランター、土、苗、支柱など</p>	
写真	 <p>新宿御苑北側ですでに実施されているみどりのカーテン</p>	


No.10	すだれやオーニングによる日除け	今回実施した取り組み
目的	(初動期～) 試す + 味わう	
対象	一人から	


概要	<p>日射のあるところにすだれをかける。できるだけ遠くで日差しを遮り、日陰の領域を広げることがポイント。</p> <p>昔から行われている涼しく過ごす方法で、取り組みやすい。</p> <p>それぞれの建物に応じて、日除けの作り方のアレンジがやすく、みどりのカーテンよりも取り組みやすいが、みどりのカーテンに比べると日射遮蔽の効果は下がる。</p> <p>(準備するもの)すだれ、オーニング</p>
写真	 <p data-bbox="616 913 1102 945">新宿御苑北側歩道で実施したすだれ実験</p>

No.11	体感まち歩き	今回実施した取り組み
目的	(初動期～)知る+味わう	
対象	参加は一人から	
概要	<p>まちに出て、熱源となるところやクールスポットなどを測定しながら、暑さ、寒さのメカニズムを知る。</p> <p>自分が何気なく暮らしているまちをフィールドに歩くことにより、熱環境改善を身近に感じることができる。</p> <p>(準備するもの)放射温度計、まち、カメラなどの記録</p>	
例	 <p data-bbox="600 1794 1150 1825">第1回ワークショップ涼風体感まち歩きの様子</p>	

No.12	体感実験	今回実施した取り組み
目的	(初動期～)試す+味わう	
対象	参加は一人から	



概要	暑さが生まれるメカニズムについて、実験をしながら学ぶ。
ポイント	実験を交えた学習となるため、メカニズムについてきちんと理解をした人が講師となって行う必要がある。 一人よりも、実験結果を共有する相手がいた方が好ましい。 (準備するもの)放射温度計、霧吹き、すだれ、発泡スチロールなど
例	 <p>第1回涼風体感セミナーの様子</p>

No.13	広報誌「涼風便り」	今回実施した取り組み
目的	(初動期～)知る	
対象	地域	
概要	<p>熱環境改善に関する地域での取り組みの報告や、涼しく過ごすためのヒント集などを掲載する</p> <p>地域全体での取り組みとして周知するだけでなく、途中からでも参加できるオープンな取り組みとするために、常に情報を発信する。そのために、地域の各所や町会回覧など様々な方法で広く配布する必要がある。</p> <p>(準備するもの)原稿と版下、紙</p>	
例	 <p>17年11月に発行した「涼風便り」</p>	